

清川泰次が写したパリと藤田嗣治のアトリエ

Ça C'est Paris サ・セ・パリ

4月1日^土 - 7月23日^日



1954年に清川泰次は、アメリカのシカゴやニューヨークにおける三年間の制作活動に終止符を打ち、単身フランスに渡ってパリで藤田嗣治らとの親交を深めています。荻須高德らと藤田のアトリエを訪れた清川は、当時にしてすでに世界的に高名であった画家がデッサンを行なう姿を何枚となく写真に収め、またその描く線、制作に対する姿勢に非常な感銘を受けたことを記しています。

アメリカからパリに渡った時、僕がいの一番に尋ねることを楽しみにしていたのは、モンパルナスの藤田さんのアトリエであった。その日は日曜日であったが藤田さんはレースが窓に大きくかかったきれいなアトリエで、裸婦のモデルを描いていた。僕はアメリカから買って持って行ったステレオ・リアリストという立体カメラで、辺りを写しまくった。そのときの一枚が後日、朝日カメラの表紙になって世間に騒がれた。裸が表紙になることなど考えられなかった時代である。1955年2月号の「アサヒカメラ」の表紙がそれである。

(『我が青春』、1985年、p.210)

当時清川が使用したステレオ・リアリストというカメラは、1948年に発売されたばかりの特殊な二枚組の写真撮影するためのカメラであり、専用のビューアー(透視鏡)で見ると奥行きのある画像が楽しめるというものでした。清川はそのカメラを使って数多の光景を撮影し、戦後間もない日本にとって非常に貴重な海外の風景を持ち帰ったのでした。ヨーロッパ中を写したそれらの写真は、その希少性ゆえに子供向けの雑誌から地理の教科書、当時のファッション誌など様々な雑誌に引用されました。

そのような写真群の中でも、清川泰次が撮影した藤田嗣治のアトリエ風景は特に貴重なものと言えるでしょう。それは藤田という一介の画家の製作の様子を事細かに伝えるドキュメントであることは言うまでもなく、パリという街並の推移をも伝えるような数多くの興味深い調度品なども含んでいます。「そう、これこそがパリの街だ(Ça, C'est Paris)」とパリの街並みを賛美したシャンソンの佳曲の名に倣った今回の収蔵品展では、清川泰次が撮影した藤田嗣治のパリのアトリエ風景、そしてその街並を記録した写真を中心に、当時の旅行の資料なども併せて展示致します。



3点とも 《パリ風景》 撮影:清川泰次 1954年

■宮本三郎記念美術館

平成18年度 第1期展

宮本三郎 東京暮色 都市の風景 変わりゆく光

2006年4月1日(土) - 7月23日(日)

●お問い合わせ

〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836

http://www.miyamotosaburo-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

東急目黒線(奥沢)駅 徒歩8分

東急大井町線(九品仏)駅 徒歩8分

東急大井町線・東横線(自由が丘)駅 徒歩7分

世田谷美術館分館
宮本三郎
記念美術館



■向井潤吉アトリエ館

平成18年度 第1期展

向井潤吉 油彩との対峙—技法とその魅力—

2006年4月1日(土) - 7月23日(日)

●お問い合わせ

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581

http://www.mukaijunkichi-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

東急田園都市線(駒沢大学)駅 西口 徒歩10分

東急世田谷線(松陰神社前)駅 徒歩17分

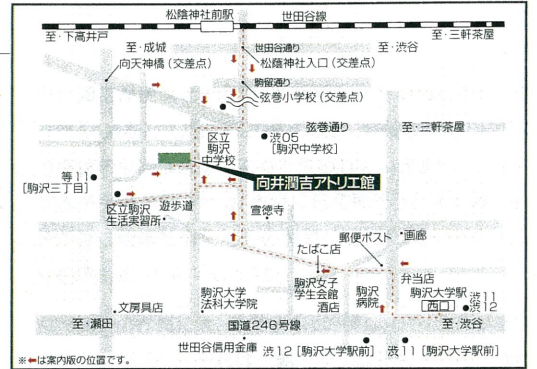
東急バス(渋05)渋谷~弦巻営業所(駒沢中学校) 徒歩3分

東急バス(等11)祖師谷折返所~等々力(駒沢三丁目) 徒歩3分

東急バス(渋11)渋谷~田園調布(駒沢大学駅前) 徒歩10分

東急バス(渋12)渋谷~二子玉川(駒沢大学駅前) 徒歩10分

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館



■清川泰次記念ギャラリー

平成18年度 第1期展

Ça C'est Paris サ・セ・パリ

清川泰次が写したパリと藤田嗣治のアトリエ

2006年4月1日(土) - 7月23日(日)

●お問い合わせ

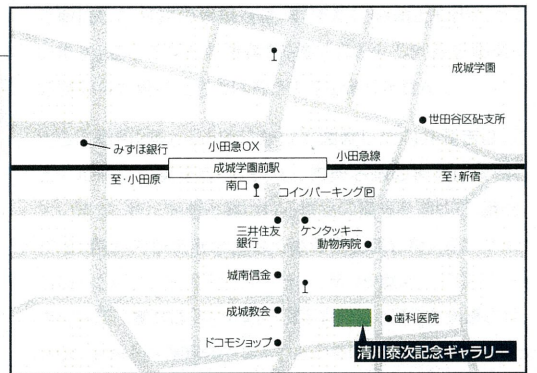
〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202

http://www.kiyokawataiji-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

小田急線(成城学園前)駅南口 徒歩3分

世田谷美術館分館
清川泰次
記念ギャラリー

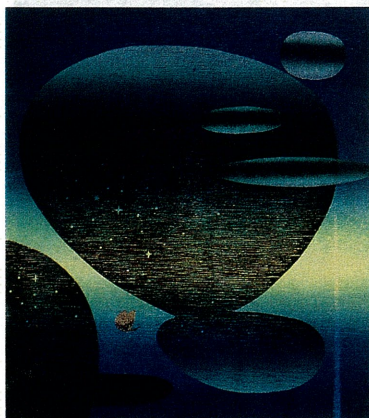


各館共通

- 開館時間 午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで)
- 観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、中小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円)、()内は20名以上の団体料金、小・中学生は土・日・祝日無料
- 休館日 毎週月曜日(ただし7月17日は開館、7月18日は休館)、年末・年始(12月29日~2007年1月3日)

世田谷美術館

〒157-0075 世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代) http://www.setagayaartmuseum.or.jp



▲吹田文明 《雲と雲》(1986年)作家蔵

《企画展》

●開催中~4月9日(日) 開館20周年記念世田谷美術展2006

●4月22日(土)~6月25日(日) 吹田文明展

戦後の版画界をリードしてきた木版画家・吹田文明の初期から近作までをご紹介します。

●7月15日(土)~9月24日(日) クリエイターズ

デザインの領域で活動している長大作(建築家)、細谷巖(アートディレクター)、矢吹申彦(イラストレーター)の3人の制作活動の軌跡を辿ります。

《収蔵品展》

●4月21日(金)~6月25日(日) 「触覚の世界」高村光太郎のこぼに触れた作家達

彫刻家であり詩人であった高村光太郎。彼が残した一つひとつのこぼには深淵な芸術精神が宿っています。本展では、洋画家・難波田龍起や彫刻家・柳原義達を中心に、高村のこぼに触発された後進の作家たちをご紹介します。



▲長大作《食堂小椅子》1960年 第12回ミラノトリエンナーレ出品

開館時間: 午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで) 休館日: 毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日) 観覧料: 収蔵品展は分館と同じ(企画展は内容により異なる)

【最寄交通機関のご案内】 東急田園都市線「用賀」駅徒歩17分、または美術館バス「美術館」徒歩3分 / 小田急線「成城学園前」駅から渋谷駅行バス「砧町」徒歩10分